そんみん元気便

「3.11」で失ってしまったもの

佐藤　恵（仙台在住・絵画講師）

文章を寄稿することになりましたが、私は大げさな事を言うつもりはありません。原発の問題は各々の立場によりナイーブな話です。けれど、私にとっての小さな楽しみを奪ったのは事実です。

それは、お正月やGW 、夏休みと季節ごとに帰省し、その時、実家の庭でバーベキューをしていました。母の用意してくれた飯舘牛や畑で獲ったばかりの野菜を家族で食べる事が楽しかったのです。それを楽しみに帰省していたと言っても過言ではないのです。バーベキューをしながら、いつも澄んだ空気、虫や動物のいる山々、大きな青い空など、飯舘の自然に、このような故郷があることに感謝していたのです。

今はそれが出来ません。切ないことです。あの事故以前のような美しく安全な自然に戻るには、まだまだ年数がかかります。それでも、飯舘村に戻れるよう尽力されている方々に感謝致します。私自身も出来る限り力になりたいと思っています。

匿名希望（神奈川在住）

はじめて、自分で買ったスーツは恋人の葬儀の為の喪服だった。

震災の年の暮れ、恋人が死んだ。

恋人は、震災の影響で家業が立ち行かなくなり、父親が亡くなって、自分の仕事を諦め実家に戻った直後の出来事だった。

あの日、震災の日の夜、僕らは身を寄せ合ってテレビの情報に見入っていた。連絡のつかない家族の名前が出てきはしないかと。そんな君の方が先に逝ってしまったけれど。

あの震災の日から二年が過ぎ、僕は高くなった電気代に舌打ちしながら、生きている。

たしかに、直接の被害者ではないけれど、帰る場所を失っても、ぼくら『被災地に実家のある親族』や『震災の間接的影響で失う者』にはなんの補償もない。

復興だ支援だと、囀る声が遠く聞こえる。一体それが誰の何の為に成っているのだろうか。

どのみちなくしたものは帰ってこない。心の穴は時を経て尚、拡がるばかりだ。

僕があの「3.11」にピリオドを打てるのは、いつのことなのだろうか。

リレーエッセイ

前回 大内 定子さん から　今回 高橋 サキ子さん へ

「孫の顔を見るために…」

「原発が爆発したら飯舘に行けば、安全だわ」などと浪江の方があっさり云っていたことがありました。あの地震の夜中に電気もなく、電話も通じないので、孫達がこわがって泣いているのでロウソクを20本くらい灯したうすぐらい中に、ひょっこりと、浪江の妹家族が５人で来られてびっくりしました。自分は放射能のことは少しはわかっていたが、原発が危ない、放射能がこんなに怖いとは思ってもいませんでした。

孫達はなるべく遠くへと連れて行ってしまった。飯舘では野菜は畑いっぱいに作り、子供達はハウス内のミニトマトや庭にあるブルーベリーや山男の実を口いっぱい、ほおばってはしゃいでいた声が耳からはなれません。

あれからあっという間に２年になろうとしています。畑いっぱいに作っていた野菜をトラックにつんで知人にあげたりしていたのに。買って食べる事の大変な事が改めて感じました。近頃では、「これ、おすそわけですが、食べてね」など、いただいています。良くしてもらい、近所とも付き合いを持っています。

避難した当時は、歩くのもままならないほど、体調不良になりましたが、これではだめだと思い運動や交流の場に出たり、何よりも飯舘のグループなどから声がかかり、集まって、笑ったり、体を動かすことが多くなり、元気を取り戻しました。交流や情報で去年は福島の方々に誘われ、何回かグループでいろいろなイベントに行って元気をもらいました。飯舘に帰るとほっとして、家の中を掃除をしたり、夢中で片付けをしていると、あっという間に夕方になり仏前に手を合わせ帰る頃にはもう泣き泣き家のカギをしめて出ます。

「ばあちゃんは孫の顔を見ると元気になるから」と、こよみを何回も見ながら楽しみに気合を入れて毎日を過ごしています。

２年いや５年といろいろ報道では気ままなことを報じているようですが、早く除染していただきたいと言っても、山々に囲まれた家々で除染に終わりがあるのでしょうか。せめて何年かかっても若者や子供達が「ああこれが、ふるさとなんだ」と帰って来られるよう、老い先短い私達老人でも一生懸命自分の自宅まわりだけでも除染したり、片付けをしなければと思います。何年かかろうと、元の飯舘になるまで東電や国にも責任をもって、保障していただきたいと思っています。

高橋 サキ子（飯樋八和木、避難先：福島市）

募集中!

ご意見、ご要望のある方はぜひ編集部までお知らせください。まってます!

090-7568-7392
〈渡辺富士男〉

編集後記　過日、知人より招待されて柄にもなくクラシックの演奏会に行くことになった。有名な演奏者による優れた演奏会だった、でも私には何も解らなかった、心地よい子守歌ぐらいにしか聞こえなかった。が、最後に「♪ふる里♪」が特別に演奏、歌われました。今まで何気なく耳にしていた曲ではあったが、突然に胸の内から込み上げるものと瞳の奥が燃えてしまうのではないかと想うほどの何かを感じた。それほどに「♪ふる里♪」は何かを感じさせ、何かを想いおこさせてくれた。やっぱり我がふる里は「飯舘」である。(F)

負げねど飯舘!!

かわら版6

No.6
2013年3月11日
愛する飯舘村を選せプロジェクト 負げねど飯舘!!
http://space.geocities.jp/iitate0311/

編集部 渡辺 富士男 〒960-1241 福島市松川町西長壇 8-17
メールアドレス fuyu-no-yama.11@ezweb.ne.jp 電話 090-7568-7392

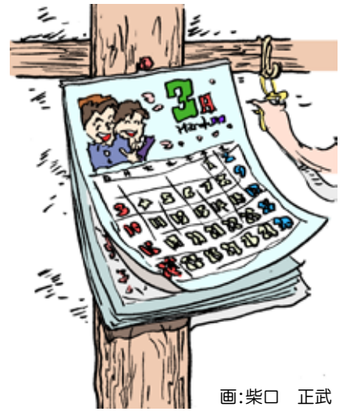
写真:伊達市伏黒仮設

3月11日

花は きっと、咲きます

飯舘村行政区長… 今 思うこと。

今回は8人の区長さんにご協力いただきました。



画:柴口　正武

比曽区長　菅野　秀一（避難先:川俣町）

「いまだ　遥か遠く」

ここ避難先の川俣でも昨年より一段と感じるこの冬の厳しい寒さ。飯舘は今頃地吹雪の真っ白な雪景色でしょうか?いつもなら希望の春への便りを待ち望む頃!

ふるさとを原発事故により奪われてすでに二年を迎えようとしていますが私達避難住民に復旧に向けた春の便りは届いているのでしょうか。

最近国は災害の現実をようやく見直し始めたかに見えますが、いままで責任もあいまいに、復旧復興との掛け声は遥か遠くにしか聞こえてきませんでした。

私達は今年からの予定される徹底除染を復旧の足掛かりにと期待をよせていましたが、いざ蓋を開ければ問題山積。住民の切実な問いかけに国の担当者の答えは事務的で私達に響きませんでした。

最近復興関係部局が統合され近くに再編されたと聞きます。本当に国と被災住民との距離は近くなったのでしょうか。被災住民と寄り添っての言葉を聞いて久しいこの頃、現実は被災者に負担を求めるばかり、村の力の弱さを切実に感じ、国への不信が増すばかりです。

近い将来、被災者の自立復興が果たせないまま、妥協ばかりの復旧が進み、世界からも忘れ去られたある日、突然テレビから聞かされる国の一方的な避難解除、帰還宣言、避難住宅打ち切り、賠償終了。このような不安に怯える住民は多いのではないでしょうか。

新聞報道での最近のアンケート結果では半数以上の住民が除染目標完了後も帰還しないとの回答が多かったとのこと、早急に国はこの不安の一つ一つを取り除き住民個々の人生再建の為の多様な選択に対して細やかな対策と更に寄り添った対応、そして現実的な賠償と継続的な医療支援、生活支援,復興支援を強力に促進しなければ復旧も復興も実現出来ないものと考えます。私たちは安全安心な環境で生きがいの有る生活を取り戻し将来の夢・希望を笑顔で話せる日をめざして、諦めず、挫けずに生きて行かなければならないと思いを強くする今日です。

飯舘村行政区長…今 思うこと。

画:柴口　正武

宮内区長　村山　豊（避難先:福島市森合）

「帰村に向けて」

この度の原発事故に伴い、余儀なくされた避難生活もまもなく2年が過ぎようとしている今、住民は心身共に疲れています。そして、まだまだ先の見えない不安な避難生活が続いています。一日も早く村に戻りたい気持ちは誰でも同じだと思います。しかし、放射能が不安で帰れないのです。

そんな中、政府は25年度一年間で全村を除染すると宣言していますが、果たして本当に可能なのでしょうか？大いに疑問を感じざるを得ません。と言いますのも、当行政区等は、除染に向けた調査結果を集計中と言うことで、まだ何の説明もなく何も進んでいません。また、最終処分場や中間貯蔵、そして仮置き場等など何も決まっていない中、除染の話だけが独り歩きしているようでなりません。机上だけでの計画倒れにならないことを期待したいと思います。

村の75%を占める山林を後回しにしていて、住居周辺の除染だけで放射線量が再び高い数値に戻らないか不安でもありますが、一日も早く「までい」な除染をお願いしたいものです。そして、明るい希望の見える明日が来ることを待ちたいと思います。

関根・松塚区長　山田　猛史（避難先:中島村）

「帰りたいけど帰れない。」

「戻れ」と言われれば、戻りたくない。
帰って野良仕事はしたいが、営農はしたくない。前が見えない。生産意欲がなくなった。そんな状態が今の状況ではないでしょうか。

ストレス、孤独感解消の為の集会を2、3回行っています。特に、若い層の集会を2回位計画したいと思っています。

区長会は議会の議決事項の報告をうける評議会の様なものです。わかっていても毎回、各々の区長さんから村政への要望を出してます。切ないです。

今日も元気だ！　生きている。
負けないでガンバリましょう。

飯樋区長　今野　政美（避難先:川俣町）

「偽らざる本音」

「こんな所で死にたくない」…足の不自由な母は言う。

2月21日、久しぶりに飯樋の家に一人で帰った。だいぶ前に降った雪がまだ山のようにある。そしてなにより寒い。避難先では感じなかった寒さだ。すっかり体が飯舘の冬を忘れていた。ここで我々はずっと生活していたのだ。雪も寒さも当たり前のように感じていたのだ。だが今本音を言えば、生理的に体が拒否反応を示しつつある。考えるだけで嫌悪感を覚える。でも心の叫びは、やはり飯舘を遠く離れた、「こんな所で死にたくない…」母と同じだ。

私が生まれ、育って、結婚して、子供を育てて生活してきた。幾千もの喜びも悲しみも全てここからなのだ。

「帰りたくない」と思うようになる前に早く帰りたい。それが偽らざる本音である。

臼石区長　林　和伯（避難先:川俣町）

「区長から区民に対して思う事」

あの忌わしい原発事故により、家族や家庭が分断され不自由な避難生活を強いられ大変お疲れ様です。

放射能よりも避難生活のほうが体に悪いと言う人も居りますがつくづく本当だなと思います。

しかし、現在の状況や今までの事だけを考えて思う事よりも、これから先の事、やる事・やれる事を少しでも明るい方向に思いを変えて、わが家に戻りたい人が戻れるように、これからの事を作っていけたら良いと思います。

被害意識、不満だけだと自分自身が滅入ってしまいます。地域の環境もこれから少しずつでも良い方向に向かって進んで行きますので、御身体を大切に頑張って下さい。

長泥区長　鳴原　良友（避難先:福島市吉倉住宅）

「復旧・復興によせて」

原発事故から2年が経過しようとしています。今さらながら思うのは、除染も損害賠償も何も進んでいないということです。長泥地区は飯舘村では唯一、帰還困難区域になりバリーゲートが張られてしまいました。少なくとも5年間は帰還ができない地区となってしまい、本当に苦しく悲しい気持ちです。

「除染して帰村させる。」ことしか国も村も考えていないようですが、除染だけではなく復旧、復興、再建という長い取組が求められていると思います。若い人を中心に考える必要があると思います。これは何度でも主張しますが若い人を中心に考えるべきです。

長泥地区においては除染をして「帰れるのか」「帰れないのか」「除染に何年かかるのか」をモデル除染の結果を検証してはっきりして欲しいと思います。

また、復興住宅（一戸建て）を早く作っていただきたい！なぜなら、長い仮設住宅や間借りでの生活で、精神的にも肉体的にも限界にきているからです。特に自然の中でゆったり暮らしてきた高齢者にとっては生死にかかわる問題です。このことを忘れないで早急に物事を進めて欲しいと強く要望しておきたいと思います。

最後に、長泥行政区報を創刊しました。いずれ村民の方々にも見ていただきたいと思います。

前田区長　長谷川　健一（避難先:伊達仮設）

「原発事故3年目をむかえて」

あの原発事故からまる2年が過ぎようとしている今、まず言いたい事はあの当時の行政は2年で帰ると大声を出していました。しかし2年が過ぎてみればあの当時と何も変わっていない、何も進んでいないのが現実です。村民は裏切られたという思いです。やはり行政としては自分たちの思いや夢を押しつけるのではなく現実をよく見て判断をするべきだと思います。4月からは1日当り4300人の除染の人達が飯舘村に入って除染をすると言われて村ではそれに乗って賠償も2年としてしまったようだが、今3月になっても4300人が泊まる所、食事の事、交通手段とか何の話も見えてきません。だから私には国でほんとうに真剣に除染を行う気があるのか疑わしく思えてならない。私は適当な除染に非常に警戒をしています。

何年か後に国の方からこれだけの時間をかけ、これだけの膨大なお金を賭けたのだから線量はあまり下がらなかったけれど健康には何も影響ありませんので飯舘村の人達は帰って下さいと言われるのが一番怖いと思っています。我々村民は子供達が外で安心して遊べる環境、そして野菜等を安心して作り販売出来る環境を取り戻すためにみんなで声を上げて徹底的な除染を国にさせなければならない。飯舘村はおとなしすぎる。みんなで大声を上げていきましょう。

大久保・外内区長　愛澤　文良（避難先:福島市）

「わが古里は、村民の一日も早い帰村を待っています」

早いもので、3.11から二年になりました。私達村民は今回の東電の事故により、区内の皆様も家族もバラバラに避難生活を余儀なくされ、悔しいです。

仮設、又借上住宅での毎日の生活は大変です。区民の絆もコミュニティもなく区内の皆様の体調を組長、区の役員も心配しています。

国は国民の命、財産を守ることが政治でないのでしょうか。今回の事故は私達避難民の命取りになる事故であります。国及び東電も早急の解決をすること、私達は、先祖代々村を守る為に「までいの力」で日本一の村に発展させました。一日も早く飯舘村をもとに戻すことです。

皆さん今日の避難生活は大変であると思います。村では各種の行事を開いているので多く参加者を募集しています。参加して絆を大切に、健康に十分に気をつけましょう。

ガンバロー！

飯舘村ゆかりの共同診療所開設

福島県民の健康と命を守る

ふくしま共同診療所を開設しておよそ3ヵ月経ちました。

この間にいろいろな方が診療や相談に訪れました。一番多かったのは甲状腺がんが心配で、検査を希望して母親が子供をつれて来られたことです。そのほとんどの子供は県で実施した検査をすでに受けていて「結節やのう胞があるが精密検査を必要としない」という結果の通知をもらっています。これでは何のことやら理解できず親は心配になっています。また検査を行った福島県立医大では甲状腺がんが発見されても原発事故とは関係ないと断言していますが、親は疑問や不安を抱いています。

当診療所では時間をかけて検査をし、結果を分かりやすく説明しています。これからも子供の健康と命をまもるために頑張ります。

ふくしま共同診療所　院長　松江　寛人
福島市太田町20-7　TEL024-573-9335